

## 【論・旭川】 掲示板

旭川や地域に関する話題や情報なら基本的にどんなことでも書込みOKです。  
もちろんサイトに関するご意見・ご感想・誤りご指摘等大歓迎です。  
私momongaも自分なりに気になった話題があればブログ代わりに書込みます。



誹謗中傷やマナーに反する投稿については管理者権限において警告あるいは削除いたします。  
また宣伝広告の無断リンク等の行為はアクセス制限の上無条件に削除いたします。

なお当掲示板は画像添付やタグの使用が可能ですがあまり極端な使用はお控えください。  
特に文字サイズの乱用は掲示板全体を見づらくしてしまいます。  
画像については容量1MB以内を同時に3枚まで投稿可能ですが実際には横サイズ400ピクセル相当に縮小表示されます。  
投稿画像は画像をクリックすると最大800×600のサイズで見ることができます。  
1MBを超える画像は投稿時エラーになりますので適切なサイズに縮小の上ご投稿ください。

[Reload](#)

**【重要】**[teacup\\_byGMOのサービス終了について](#)

<思いやりのあるコミュニティ宣言>

teacup 掲示板は、皆様の権利を守りながら、思いやり、温かみのあるコミュニティづくりを応援します。  
いつもご協力いただきありがとうございます。

投稿者

メール

題名

投稿

確認

内容



入力補助



画像・ファイル

<IMG> youtubeの<IFRAME>タグが利用可能です。

[\(詳細\)](#)

URL

[ [ケータイで使う](#) ] [ [BBSティッカー](#) ] [ [書込み通知](#) ] [ [検索](#) ]

キーワード: [旭川](#) [情報](#) [歴史](#) [ [その他](#) ]

検索

《前のページ

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

次のページ》

全1586件の内、新着の記事から50件ずつ表示します。

Re: またひとつ・・・ 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年10月15日(火)17時22分52秒

[返信・引用](#)

> [No. 808\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

> 北海道ではこういった事に敏感に反応する人ってマイノリティだと思います。しかもサイレント（笑）

そうですか。マイノリティでサイレントですかあ。  
以前、通りの名称を調べたときにも、おかしい感じでしたよね。  
昭和通りが旭橋の向こうまで続いていて、大雪アーリーナのほうまでも伸びていたり、むちゃくちゃです。

> 考えなきゃいけないのは、駅名の例もそうですが、  
> 東京人が大事にするのは必ずしも数百年もの歴史を持つものばかりという訳ではなく、  
> 明治以降の近代伝統文化もちゃんと大事にしているという事です。  
>  
> 旭川人も、せつかく120年を経過してようやく積み上がってきた歴史・伝統を、  
> たかが停留所名、と無下に帳消しにしてしまう愚行はいいかげん改めたいものです。

古いものだけを大切にするんじゃないですよ。  
土地や歴史に根差したものを最初から大切にすることから、自然と長く残って結果古くなるんです。  
つまり旭川の人には軽いのか？悪く言うと「軽率」？  
momongaさんの感覚でいうと、悪しき歴史を封殺しようという感覚が古いものを否定しているのかな。  
わからないですけど。

Re: またひとつ・・・ 投稿者: momonga 投稿日: 2013年10月12日(土)15時39分40秒

[返信・引用](#)

> 旭川ばかりではないと思うのですが、その土地に根差したものの敬意というか  
> 歴史の継承というか、そういう意識ってどうなっているんでしょうね。

北海道ではこういった事に敏感に反応する人ってマイノリティだと思います。しかもサイレント（笑）  
だからこれまでも、愛宕や千代田といった伝統的地名を平気で潰してしまったし、下兵村も潰しにかかっています。  
これらを豊岡やら東光などという新造名称に置き換える事にいったい何の意味があるのか？  
田舎臭いとか、いかにも農村っぽいとかの感覚かな？  
とにかく古いものを潰してしまう事に関しては非常に無頓着ですね。

これが東京なんかだと、けっこう地域住民が反対運動を立ち上げたりしますね。  
歴史・伝統に由来するものに対する意識がまるで違う・・・  
数百年続く町名などまずめったな事では変更できないし、伝統地名に由来する駅名などもそうです。  
東京で今風の町名・駅名が付けられるとすれば、近年の埋立地か、何もなかった郊外の丘陵地に造られた宅地くらいなものです。  
それでもけっこう味のある名を付けるケースも多いですけどね。

例えば旭川であればとっくに変えられているだろうな、と思われる典型的な例として品川駅があります。  
この駅は品川という住所にはありません。  
駅があるのは高輪であり、近年急速に開発が進む東側の埋立地も港南という名が付いています。  
町名はおろか、そもそも品川区ではなく港区に属するのです。

かつての宿場町として栄えた品川宿は、駅より南側の旧街道沿いであって、こちらに東西南北を冠した品川の町名があります。  
明治初期まで目黒川河口付近の沿岸を広く品川と呼んでいた事から、当時海岸っ淵にできた駅も品川駅としたようです。  
後々に京浜急行が乗り入れ、旧京浜急行品川駅を町名に従って北品川駅とした事から、品川駅の南側に北品川駅があるという、さらにややこしい事になっています。

つまり品川駅の位置関係というのは、現在の住所から鑑みると相当にややこしく矛盾しているのですが、だからと言って、品川駅を高輪駅に変更しようなどという話が持ち上がったというのは聞いた事がありません。生粋の東京人でしたらおそらく「バカなこと言うな！ここは元から品川で高輪こそ山の上だろ！」と言うに違いありません。旭川とは逆で、明らかに古くからの地名を優先する気風がありますね。

考えなきゃいけないのは、駅名の例もそうですが、東京人が大事にするのは必ずしも数百年もの歴史を持つものばかりという訳ではなく、明治以降の近代伝統文化もちゃんと大事にしているという事です。

旭川人も、せっかく120年を経過してようやく積み上がってきた歴史・伝統を、たかが停留所名、と無下に帳消しにしてしまう愚行はいいかげん改めたいものです。

---

Re: またひとつ・・・ 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年10月 9日(水)11時35分9秒

[返信・引用](#)

> [No. 806\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

> またひとつ旭川に残る数少ない伝統的呼称が消去されてしまうようです。

私も新聞記事を見て驚きました。

まったく寂しい限りです。

旭川ばかりではないと思うのですが、その土地に根差したものへの敬意というか歴史の継承というか、そういう意識ってどうなっているんでしょうね。

私は歴史が好きなわけではありませんが、現在および未来って歴史の上に築かれていますよね。

だから、今を理解するためには過去が必要です。

なるほどと思えることが好きなんです。

意味の無いことが嫌いなんです。

明治の初め、何もなかった上川の地に旭川という街が築かれる。

何故ここに街ができたのか、そして今日まで発展してきたという過程が自然と地名には刻まれますものね。

だからmomongaさんが地名に拘るのも良くわかります。

わたしも同じ思いです。

でも、そんなことはどうでも良いなんて人もいるんだろうなあ。

---

またひとつ・・・ 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年10月 4日(金)21時07分49秒

[返信・引用](#)

昨日の道新旭川ローカル版に、旭川電気軌道がバス停35ヶ所の名称を変更する旨の記事がありました。

旭川電気軌道が電車時代から今日まで続けてきた「追分」「徳巖寺」なども変更するとの事。

またひとつ旭川に残る数少ない伝統的呼称が消去されてしまうようです。

変更後の停留所名は豊岡〇条〇丁目とか、東旭川〇条〇丁目という味もそっけもない単なる現住所。

変更理由は、現在の住所や建物と合わないし利用者に分かり難い、という事だそうです。

はて？

例えば「追分」ですが、

かつての電車時代から、そもそもここが追分という住所であった事は一度もありません。

もともと東川と東旭川へ向かう街道の分岐点という意味で古くからこう呼ばれてきたのです。

それどころか、むしろ電気軌道がこの呼称を電車の分岐駅の名前に使った事から定着したのであり、今さらこれが現住所と合わないからという理屈はちょっとおかしい。

現在でも東川・東旭川への分岐点である事には変わりはないのです。

また「徳巖寺」にしても、今でもこのお寺はちゃんと現存しているわけであり、何ら矛盾はない。

東旭川の地元ですっかり定着している停留所名をあえて変更するほどの理由は私には思いつきません。

広告宣伝料を取ってどう考えても停留所に相応しくない一民間施設を車内案内する事の方がよっぽど紛らわしい。

私も長いこと旭川に住んでますが、未だに豊岡〇条〇丁目とか東光〇条〇丁目とか突然言われても「はて、どの辺りだったかな？」と戸惑います。

豊岡3条2丁目と言われたってすぐに分かりませんが、追分と言われれば一発で分かります。

この事は必ずしも地元の間人ばかりではなく、他所から来た人間もそうだと思います。

いや、むしろ地域の住所に不案内な他所の人間のほうが、住所以外の固有名称を使ってくれた方が分かり良いのではないのでしょうか。

慣れない街でバスに乗るのに、数字だけが変わってゆく条丁方式の停留所名を聞かされてもチンプンカンプンです。

バスの停留所名や駅名などは、できるだけ特徴的な地名や固有名詞を使ってくれたほうがよっぽど特定し易く分かり易い。

これに対し、良い方に変更されるケースもあるようです。

「東神楽3号」から「ひじり野1条10丁目」への変更です。

東神楽地域は、上川離宮計画によりかつては東御料地と呼ばれ、西御料地と並んで御料農地として開拓された地域です。

その中でもこの付近一帯は、丘の上が「聖台」と呼ばれたのに対し「聖野」（ひじり野）と呼ばれていました。

千代ヶ岡や八千代ヶ岡もそうですが、いずれも皇室に由来する字名が付いていたのです。

旭川近辺の農村地帯はいずれも町名＋〇線〇号という区画割りが住所となっており、停留所名にも数多く使われていますが、

ひじり野の場合は逆にかつての由緒ある字名が戻ってきたケースと言えます。

まあ、なんせ北海道の間人は画一的な名称を付けるのが好きですよええ。

明治以降、市街地にしても農地にしてもきちっと区画された土地柄ですから、それが北海道の伝統・気質なんだと言えればそれまでですが、そればかりではあまりにも味気ない。

そんな中でも数少ない歴史を辿る事のできる地名や名称くらい残せばいいのに、と常々感じています。

何故「追分」というの？ 何故「ひじり野」というの？

という疑問一つを辿るだけでも郷土の歴史の一部を紐解く事ができるのでから。

東光やら緑が丘という名からはそれができません。

赤岳登山 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 9月23日(月)23時12分5秒

[返信・引用](#)

久々に高山の紅葉が見たくて赤岳へ登ってきました。

一般観光客が車&徒歩で行ける銀泉台、標高1500m付近は今が見ごろですが、それより上に行くと、初冠雪もあったことからザンネンながらピークを過ぎていました。

でもまあ、人の多いこと多いこと・・・

赤岳登山口のある銀泉台は既に一般車両進入禁止。  
 麓の大雪山湖畔の臨時駐車場から満員のシャトルバスにガタガタ揺られて30分。  
 全国からの登山客も観光客もごちゃ混ぜになって登山開始。  
 30分ほど登るとさすがに一般観光客はいなくなりますが、それでも山頂を目指す登山客だけでもかなりの人数でした。  
 登山道はほとんどアリの行軍状態 ^^;

大雪山の紅葉の美しさは、何と言っても這松や笹などの常緑の中に真紅に色付く高山植物が混じるからです。  
 たとえ下界と同じ樹種であっても厳しい環境下で人の背ほども育てず、それらが山肌へばり付くように一面に広がる・・・  
 この光景は、やはり苦勞して登った者にしか味わえることのできない特権かと思えます。  
 あ、いや、けっして特権意識を振り回したい訳ではなく、健康な方であれば、まして地元の方であれば、ぜひとも一度は経験しておいてほしいと願うものです。

写真上：登山口の銀泉台と赤岳山頂との中間点コマクサ平（1800m付近）から見た山肌。

手前の赤い実を付けている木は旭川でもお馴染みのナナカマドの種類。  
 濃く見える緑は這松で、明るく見える緑は腰ほどの高さもない笹である。  
 雪渓は昨冬から残っている残雪。

写真中：赤岳山頂。多くの登山者が次から次へと訪れていた。  
 登坂中は青空も出て汗ばむほどの好天だったが、山頂へ着くと次から次へと雲が流れて来た。  
 写真ではわからないが、手がガチガチにかじかむほどの冷たい風が吹いていた。

写真下：赤岳山頂から御鉢平・烏帽子岳方向を望む。  
 10月に入るとこの辺一帯は銀世界に包まれる。





旭川駅南 北彩都ガーデン 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 9月10日(火)17時22分22秒

[返信・引用](#)

旭川駅南側にオープンした「北彩都ガーデンの一部」に行ってみました。  
出来たばかりで芝の種が芽を出していない部分や、植えたばかりの草花が弱々しか  
ったり、見ごたえがあるとは言えません。  
来年にはもう少し見やすくなるでしょう。  
でも、やっと整備が終わってスッキリと綺麗ではあります。  
今はいかにも人工の公園って感じですかね。  
ところが、その公園を忠別川に向かって歩いてゆくと、自転車道を超えた部分から  
風景が一変します。  
さらに虫達の鳴き声が大きく響き自然の生態系が生き生きと感じられる河岸になり  
ます。  
あまり手を付けていない河川部分ですね。  
そこが素晴らしい。  
今はなんと蒲の穂がきれいに生えています。  
駅南側ガーデンに行かれた方は是非、川岸まで向かわれることをお勧めします。





「空の日」空港まつり 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 9月 9日(月)00時25分39秒

[返信・引用](#)

以前から行ってみたいと思っていた空港まつりですが、ようやく”実現”しました。

と言いますのは、管制塔などの見学は事前申し込みによる抽選なので、これまでクジ運というものにまるで縁の無い人生を送ってきたワタシとしては、申し込むこと自体今まで躊躇していたわけです。

空港へは度々写真を撮りに行くし、自分自身もよく飛行機を利用するので、この抽選の壁を突破しなければ意味がありません。

今回たまたま手元にあった往復ハガキを出してみたところ、何と！あっさり当たってしまいました。(^^)v

時間別に3回実施とはいえ、1回当たり僅か10名ほどの抽選によく当たったものだと自分で感心です。

という訳で、旭川空港の管制塔へ昇ってきました。

さすがに管制塔からの眺めはたいへん良かったです。

ザンネンながらカメラ・携帯は持ち込みできず・・・、管制塔内からの画像はナシです。

しかしながら1時間ほど普段見る事のできない場所を見学&説明して頂き、たいへん参考になりました。

この日は、空港駐車場も無料。

天気にも恵まれ、家族連れ中心に多くの人々で賑わっていました。

写真上： グリーンポート駐車場にステージや露店が設けられ多くの人で賑わう。

写真下： 普段は一般人の立ち入る事のできないエプロンが開放され、

空港専従の消防車や除雪車なども公開された。

ただしセキュリティエリア内は事前申し込みした人間のみが入場可。

この時はアジアナ航空駐機のためスカイマークはボーディングブリッジを使用できなかった。

せっかくボーディングブリッジを増設したのにエプロン工事で未だに効果は発揮されていない。



Re: 見るも無残な光景・・・ 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 8月29日(木)11時36分33秒

[返信・引用](#)

かんじさんへ

私は最初この光景を見た時、ショックというか、呆れ果てて開いた口が塞がりませんでしたよ。

まずは伐採された木の数の多さに驚きましたが、さらにシャッターを切っていくうちに疑問が込み上げてきました。

「この伐採の判断はどこの誰がどういう基準で行なっているんだろう・・・」

そこで脳裏を過ぎったのが、常磐公園問題の市民説明会の時、盛んに老木の危険性を強調していた市側の専門家です。

現地見学でも大木を指して「あの木も危険この木も危険」とやってました。もし、ああいう人が伐採判断を下しているとすればこうなるだろうな、と思ったものです。

確かに春光園には過去の天災等でダメージを受けて傷んでる木があったと思います。

それでもたくましく、樹形は悪いながらもこれまでちゃんと生き長らえてきました。

今回はそういった見てくれの悪い木を危険木として片っ端から伐採したと考えられますが、そんな木ばかりあの切株の数ほどあったとは思えないので、それだけではなさそうです。

この種の判断で一番問題なのは、ある基準で1本を伐採対象と判断してしまうと、



似たような状態の木が芽づる式にあれもダメこれもダメ、となってしまう事です。まさに私の脳裏を過ぎった専門家が「あの木も危険この木も危険」とやっていたのと一緒にです。それが結局大量伐採に結びつく・・・  
 とんでもないヤブ医者にかかってまだまだ全うできる天寿を絶たれたとしか言えません。  
 その証拠にどの切株を見ても健全そのものです。

はっきり言って、危険回避のための伐採はキリがないと思います。どんなに健全な木であっても強風や雷などで倒れる時は倒れるのです。平成16年の台風18号の時は市内の街路樹や公園木、それに見本林の木がバタバタ倒れました。私の近所でも緑地帯の松や神楽岡通りのプラタナスがあちこちで倒れて通行できなくなりました。これら倒れた木は、けっして老木でもなければ危険木と呼ばれていた木でもありません。共通しているのは、樹高に比して根が浅い樹種がほとんどです。つまり、本気で倒木による危険除去を考えるなら、むしろこれらの樹種を全て伐採対象としなきゃならなくなる。こんな事は専門家が就いているなら常識中の常識でしょうにね。広葉樹、それもナラ、タモ、ニレ、カバなどがっちりした根を張る樹種が多い春光園での伐採が、いかにポーズだけで、本気で危険除去を心配した上での伐採でない事がわかります。適切な枝打ちさえしてやれば、なにも切り倒す必要のなかった木が多かったのではないのでしょうか。そういえば件の専門家さん「樹木保護は伐採よりコストがかかり過ぎる。負担できますか？」とも言及してました。

問題はその後だと思います。前レス既出の犬の散歩をした方が言われた通り、何をどうやってももう元には戻せません。早々にこの醜く残された大量の切株を除去し、跡に適切な植樹を施すべきです。それが先人から受け継いだ文化を100年後の後世に残す最低限の責任ではないでしょうか。

Re: 見るも無残な光景・・・ 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 8月26日(月)18時22分11秒

[返信・引用](#)

momongaさんへ

- > そう、これは安全対策に名を借りた、役所特有の責任逃れ以外の何ものでもありません。
- > またまた面倒な反対運動が起きる前に、危険除去を理由にさっさと事を済ませたとしか思えません。
- > これ本当に全て倒れそうな木ばかりだったのか？

ん～。  
 全く旭川市のやろうとしていることが見えませんね。  
 健全な木を切ってしまったとしか思えないですね。  
 木の寿命？60年～80年とか適当な事も言っていますが、環境でものすごく大きく違います。  
 切り株が真っ白で生き生きしているなら、明らかに都会にある貴重な健全な木を切ってしまったとしか言えないですよ。  
 本来動物では無い木には「寿命」というものはありません。  
 環境さえよければ永久に死なないのです。  
 屋久島の杉は7000年以上生きています。これは木という大きな生物ではなく、木の細胞が新陳代謝を繰り返すことにより生と死を繰り返しているからです。  
 木は100年も経てば死ぬなんて誤った感覚があるのではないのでしょうか？  
 今は樹木医という人かいるのですからキチンと調べれば解かるはずなんですけどね。  
 何か新しい計画の邪魔になるので仕方なく切るということはあるかもしれませんが

が、  
古くなったから切ってしまうなんてのは植物である木の管理としては間違っています。  
ひょっとして木を市の施設とでも思っているのでしょうか？

見るも無残な光景・・・ 投稿者:momonga✉ 投稿日:2013年 8月25日(日)20時13分11秒

[返信・引用](#)

「切株の写真撮ってネットにでも出すのかい？」  
「ひどいよなあ、こんなにしてしまったらもう元に戻らないよ。絵にも描かれてる庭なのに・・・」

先日、春光園（旧借行社前庭）での伐採跡にレンズを向けていると、犬の散歩をしていた方が声をかけてきました。  
近所の方と思われますが、やはりあまりにも思慮に欠いた大量伐採に相当憤りを覚えているようです。

旭川市はよく自らを指して『文化都市』とか『文化の香るマチ』とかいう表現を使います。  
市民憲章にも『文化を育て、豊かな郷土をつくりましょう。』とあります。  
また『自然を愛し、きれいな都市をつくりましょう。』ともあります。  
しかし、常磐公園の樹木伐採問題も然り、春光園でのこの無慈悲とも思える伐採の現実を見る限り、先人が育んできた文化の破壊を始めたと思えませんか。  
樹木の適切な世代更新を怠って来たあげく、一時の思い付き施策でバサバサと大量の樹木を切り倒す・・・  
そう、これは安全対策に名を借りた、役所特有の責任逃れ以外の何ものでもありません。

常磐公園の伐採問題ばかりが表立っていますが、その影で、常磐公園よりさらに古い歴史を持つ借行社前庭でのこの惨状。またまた面倒な反対運動が起きる前に、危険除去を理由にさっさと事を済ませたとしか思えませんか。

私はただ闇雲に倒木の危険のある樹木の伐採に反対するつもりはありません。  
本当に危険ならばそれはやむを得ない。  
ただしそれは永年に渡って継続して管理すべきで、1本また1本と伐採したならば跡にまた新たな植栽を伴うべきです。  
今まで何十年もずっとほったらかしにしていたから、景観が大きく変わってしまうほどいっぺんに大量の木を切らなきゃならなくなる。

それに、下の写真をよく見て頂きたいと思います。  
伐採された切り株を見る限り、どの株も白く綺麗な木質が芯までびっしり詰まっています。  
これ本当に全て倒れそうな木ばかりだったのか？

通常、寿命を迎えたり健康を害した樹木は、年代の古い年輪の中心部から外側の樹皮に向かって腐食して行きます。  
従って、危険木と言われる樹木は、一見何でもなさそうで、いざ伐採してみると中が腐って空洞になっている事が多い。  
しかし、今回伐採された切り株を見る限り、中が腐って空洞になっているものは殆んど見当たりません。  
果たして伐採の判断・基準は本当に適切だったのか？

理由はどうあれ、一度にこれほど大量の伐採をしなきゃならないほど、いったい今まで何をしていたのか？  
今後もこの大量に残された切り株をこのまま放置し、庭園がスカスカになるまで同じ事を繰り返すつもりなのか？  
まさかとは思いますが「切り株がベンチ代わりにちょうどいいじゃないか」とでも考えているとすればその能を疑います。

現在、国の重要文化財である旧借行社は、建物保存のための全面改修を施していません。  
しかしそれとは裏腹に、建物とセットとも言えるその前庭では、切株だらけとなった醜い光景を晒しているのです。  
少なくとも私は、とてもじゃないが恥ずかしくて『文化の香る・・・』などとは紹介できません。

↓旭川市は借行社の建設間もない頃の姿に戻ってしまうつもりなのか？

<http://white.freespace.jp/layla/image/donai/abasdate/asah029.html>

<http://white.freespace.jp/layla/image/donai/abasdate/asah030.html>

(s. laylaさんのサイト「絵葉書の世界」より)

参考：春光園の樹木は元々北海道に自生する広葉樹が多い。  
広葉樹は松や杉などの針葉樹に比べ成長が遅い分木質が硬く詰まっていて家具や内装材などに用いられる。  
樹種にもよるが、成長が遅い故に成木になるまで百年単位の年月がかかる。  
上のリンク写真を見てもわかるように、これら樹木は借行社が完成した明治35年以降に育ったものが殆どで樹齢は長いもので110年ほど。

写真上：春光園の南西側。けっして広くはない春光園のこの付近だけで十数本が伐採されている。

残された木より伐採された木の数が上回っている事が分かる。

まだ赤いテープが巻かれている木があるが、

もしこれも伐採対象だとすればこの付近はほとんど皆伐と言っていい状態

となる。

写真中：こちらは南東側。市道沿いを中心にやはり多くの木が伐採されている。歩道にはみ出る形で何本かの木が立っていたが、細い木も含めて伐採されている。

まだ歩道上に残っている木にはやはり赤いテープが巻かれている。

伐採された木の大半がこれら市道寄りに集中しているところを見ると、

倒木があった場合、被害の可能性が高い場所のリスク回避を目的としている事が見て取れる。

リスク回避と言えば聞こえは良いが、要するに役人にとっての責任回避策である。

(いざ倒木があった時に「必要な対策は施してました」と言い訳できる)

写真下：今回伐採された木の切株はほとんど全てがこの様に綺麗な木質が芯まで詰まっている。

根もしっかり張っているし、これを見る限り倒れる危険があった不健康な木とは想像できない。

枝の剪定だけでは済まなかったのだろうか？

できるだけ最小限の伐採に留めようという意識はあったのだろうか？

何よりも、これら大量の切り株を放置したまま新たな植栽は施さないのだろうか？



ニセイカウシュッペ登山 投稿者: [momonga](#)  投稿日: 2013年 8月 4日(日)22時05分10秒

[返信](#)・[引用](#) [編集済](#)

日本三百名山の一つに数えられ、アイヌ語で「断崖絶壁の上にある山」の意味を持つニセイカウシュッペ。

私はこの山に初めて登ったのですが、「どうしてもっと早く登らなかったのだろう」という気持ちでいっぱいです。

広大な大雪山連峰を一步外れた北側から周囲360度を見渡せる素晴らしい眺望の山でした。

往復11kmの行程、もっぱら運動不足の私の足はガタガタでしたが何とか登り切ってきました。

写真上：登山道の登り中間地点。正面に「大槍」と呼ばれる尖った峰が立ちはだかる。

この峰をトラバースし、中央奥に小さく見える峰の直下からUターンする形で左手の山頂を目指す。

右手は層雲峡の溪谷につながる険しい断崖絶壁である。

写真中：ニセイカウシュッペ山頂。南西側に大雪山連峰が一望できる。

旭川から見ると一番左側に見える愛別岳がここからは一番右側に見える。正面付近に黒岳。

ここの間の溪谷に層雲峡の温泉街がある。

地図上の標高は1883mとなっているが、ここの標識では1878.9mとなっている。

写真下：この時山頂には私以外に一人だけ。こんな高い所までキタキツネが現れた。

おそらくエサを与える登山者がいるせいであろう、恐る恐るながらも近づいて来る。

野生の動物にエサを与えるのは絶対に禁物です。

奥の小高くなっているところが本物の頂上か？

背景に見えているのは裏大雪の山々。一番高く見えているのは石狩岳と思われる。





Re:「地名記載二付キ内訓」 投稿者: momonga✉ 投稿日: 2013年 7月31日(水)12時14分26秒

[返信・引用](#)

あずさんへ

- > ここはひとつ旭川代表の意気込みで、ダァ〜っと…。
- > できれば本でも、紙媒体でなくとも…。
- > 何かしらHP以外にも出版してくださればと…。

私の知識レベルじゃまだまだ愛好家どまりです。とてもとても・・・  
それに過去の郷土史関連刊行物の例を見ても、図書館や古書店へ出向いて自分で探し出さなければならぬというのがほとんどで、一般向けには非常に非効率的ではないでしょうか。  
それを考えると、やはりWEBサイトというのが現状では最強の媒体だと思っ  
ます。  
さほど興味のない人でも、たまたま検索で引っ掛かって目に留まるという事も多い  
ですしね。

- > ここら辺は、基礎の知識が無い者にとっては「ふ〜ん」になってしまいます。
- > そこに時系列の資料が伴っていると、読み物としてもワクワクです。

そうか、、、失礼しました。m( )m  
私もついつい相手も知ってるものとして話してしまうんですね。  
言われてみれば確かに、こんな事まで調べてる人間なんてそれこそ本物の郷土史家  
でもなければ、私みたいな偏屈おじさんくらいですよ（笑）  
機会を見て、旭川開村前後の出来事を時系列に並べてわかり易くしたものを何らか  
の形でUPしたいと思います。  
もちろん視点としては、旭川の名のアイヌ語地名由来論の矛盾を突くものです。

- > 市町村名などの告示とは違い、字名はどう呼ばれていたのかがそのまま残っているイメージが良いのでしょうかね。

ほとんどがそうだと思いますよ。境界なんかはかなりいい加減であったと思います  
し。  
アイヌ語は外国語と一緒に聴く人によって微妙に聴こえ方が違いますし、カナにす  
るとこれまた表現がバラバラです。  
それでも当時の探検や調査で報告された文書や手書き地図に記載されたアイヌ語地  
名が基礎になってます。  
結局のところ、これらが何らかの正式な公文書や地図に転記された時点で役所が使  
う字名になったという事でしょうね。  
この時点で本来のアイヌ語の持つ意味と違ってしまったというケースも多いよう  
です。  
中には忠別太のように調査した人間によって既に漢字が充てられるケースもありま  
した。

Re:「地名記載二付キ内訓」 投稿者:あず 投稿日:2013年 7月25日(木)22時58分58秒

[返信・引用](#)

> [No. 796\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

知れば知るほど深みにはまっていくと言いますか…。  
もっともっと知りたくなってしまいますよね。

> まあ、この内訓にまつわる見解はあくまで私の推測の域を出ませんが、  
> 私が最も着目しているのは、この年にあった一連の史実を時系列に並べた時の不自然さです。

推測こと醍醐味。  
個人的には、momongaさんのように時系列に史実を並べられない(知識不足な)もどかしさを感じます。

ここはひとつ旭川代表の意気込みで、ダァ〜っと…。  
できれば本でも、紙媒体でなくとも…。  
何かしらHP以外にも出版してくださればと…。

> すでに述べたように、半年以上も前に内訓の意に沿った滝川・新十津川などの開村告示がされているのに、  
> 何故この時点でさっさと内訓を発しなかったのだろうか？と疑問に思うのです。  
> 内訓でやはり例として挙げられた奈江村（滝川から分村、後の砂川・歌志内）もそうですが、  
> 炭田開発や屯田兵村設置によって空知地方そして上川地方にはこの年続々と開村が予定されていたはずで

こころ辺は、基礎の知識が無い者にとっては「ふ〜ん」になってしまいます。  
そこに時系列の資料が伴っていると、読み物としてもワクワクです。

漢字で忠別が登場したのは〇〇の〇〇とか、そんな初歩的?なことも知らない方が、自分もそうですが多いかと思えます。

> そんなこんな経緯があった上での7月末になってからの内訓、そして9月20日の旭川開村告示です。  
> 私がどうしてもうがった目になるのはお分かり頂けるでしょうか（笑）

「うがった目」も大いに結構なことですよ。  
自分も「へそ曲がり」ですから、そんな視線は大好きです。

> 道庁においても使われていた字名であった事には違いないのではないのでしょうか。

市町村名などの告示とは違い、字名はどう呼ばれていたのかがそのまま残っているイメージで良いのでしょうかね。  
そんな小さな疑問も拾ってくれると、とてもうれしい気分です。

---

Re:「地名記載二付キ内訓」 投稿者:momonga✉ 投稿日:2013年 7月23日(火)23時11分11秒

[返信・引用](#)

あずさんへ

まあ、この内訓にまつわる見解はあくまで私の推測の域を出ませんが、  
私が最も着目しているのは、この年にあった一連の史実を時系列に並べた時の不自然さです。

すでに述べたように、半年以上も前に内訓の意に沿った滝川・新十津川などの開村告示がされているのに、  
何故この時点でさっさと内訓を発しなかったのだろうか？と疑問に思うのです。  
内訓でやはり例として挙げられた奈江村（滝川から分村、後の砂川・歌志内）もそうですが、  
炭田開発や屯田兵村設置によって空知地方そして上川地方にはこの年続々と開村が

予定されていたはずです。

時系列と言えど何よりも不可解極まるのが、永田方正による空知・上川・樺戸3郡の地名調査が3月であるという事です。

1月に既に開村済みの滝川は永田方正による命名と言われています。私もそう思っています。

という事は、滝川は彼が現地調査する前に命名したという事になります。おそらく誰か現地の事情を知る者から情報を得て命名したという以外に考えようがありません。

後のアイヌ語学者知里真志保が「永田方正は推測による地名解が多い」と批判した所以かもしれません。

全く同じ事が旭川についても言えます。

チュブペツという語源に日の出という意識、さらには旭川という名も1月2月の時点で既に公にされています。

やはり調査前である事から誰かの知恵なくしては永田方正にこのような意識が出てくるはずありません。

ただし、滝川との決定的な違いは、その命名が単なる村名に留まらず、上川離宮の名をも意味するところにあります。

そこに元々の離宮推進当事者であり、絶対的為政者である永山武四郎の意図が入る事は当然過ぎるほど当然です。

漢字で忠別など論外、この地ばかりは単純にアイヌ語地名の置き換えであってはならない、と考えるのが自然かと思います。

やはり先に旭川という名があって、これにアイヌ語意識を付すための工作が成されたと見るべきでしょう。

永田方正の地名調査は旭川や滝川地域だけではありませんから、全てが裏工作のためとは言いませんが、

ことチュブペツ意識に関しては、既成事実づくりの目的があったと思われる。

ちょっとまた話が逸れてしまいましたが、

そんなこんな経緯があった上での7月末になってからの内訓、そして9月20日の旭川開村告示です。

私がどうしてもうがった目になるのはお分かり頂けるでしょうか（笑）

サイト中でも述べている通り、

旭川の名は、アイヌ語由来＝永田方正の意識から命名、といった単純な理屈だけでは到底説明できない矛盾があります。

と同時に、このような工作をせざるを得なかった永山武四郎の思いやりを感じるしだいです。

> そもそもですが、空知太や忠別太が字名なのか…ですよ。

> その時々で、何をもち字名なのかを定義しなくては、異論が出そうな気がします。

これはあまり難しく考える必要はないのではないのでしょうか。

当時、その土地に元々アイヌ語地名があって和人もそのまま使っていればそれが字名ですし、

新たに和名が付けられていてそれなりに定着していればそれが字名であったと思います。

アイヌ語をそのままカナに置き換えたのがほとんどだと思いますが、

忠別のように漢字まで充てられていたのは当時としてはむしろ例外と言えますが、道庁においても使われていた字名であった事には違いないのではないのでしょうか。

Re: 「地名記載二付キ内訓」 投稿者: あず 投稿日: 2013年 7月21日(日)21時50分13秒

[返信・引用](#)

> [No. 794\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ



現代語訳、ごくろうさまです。  
現代人でもとても解りやすいかと思えます。

> 私がこの通達文から感じるのは、永山武四郎のアイヌ文化を尊ぶ強い思いです。

少々温度差を感じますが、人物像のイメージですかね。

> この時期このタイミングというのは、まさに旭川開村告示の直前であるという事です。

こういう読みはmomongaさんらしいです。

> 滝川もまた本来ならば「空知村」とでもすべき「ソラチプト」という字名を持っていたわけですから。

そもそもですが、空知太や忠別太が字名なのか…ですよね。  
その時々で、何をもちて字名なのかを定義しなくては、異論が出そうな気がします。

> 旭川開村告示直前になって敢えてこのような内訓が通達された意味は、  
> 間もなく告示する旭川の名も、従前から自分が言っていたようにちゃんとアイヌ語を尊重してますよ、と強調しつつ、  
> 以降命名される村名に対して縛りを加え、  
> 何よりも永山武四郎自身の思いとして、上川に開く村名は例外、としたかったのだと思えます。

個人的に武四郎がそうしたかったと断定するには、モヤモヤとした言い切れない部分があるかと…。  
ただ、この内訓はレアな地域である上川地方にとって、必要な措置だったのだとは思います。

Re: 「地名記載二付キ内訓」 投稿者: momonga 投稿日: 2013年 7月18日(木)20時20分13秒

[返信・引用](#)

一応、現代語訳文です。  
私も最初「羅馬字」とは何ぞや？と悩みました（笑）  
誤りがあつたらご指摘ください。

### 「地名記載に付き内訓」

本道の地名記載方法等について別紙の通り決議した  
条文第一項、第二項の趣旨は公文書・地図等への  
地名記載の際において注意すること  
右内訓する

明治23年7月31日 北海道庁長官永山武四郎

- 第一項 地名に充てる漢字はなるべく難字を避けよ
- 第二項 各地の字（あざ）名はすべてカナで記載すべし  
ただし場合によっては（地図のごとき）ローマ字で記し、  
またはカナ・ローマ字を併記すべし
- 第三項 町村名及び町村の上に冠する総称（福山の類）等  
公称の地名はすべて従来通り漢字を用いる
- 第四項 既存町村名で難読の文字（幸震・咄別の類）は  
将来町村の分合等の機会を待って更正するものとする
- 第五項 将来新たに町村名を付ける時はその地の字（あざ）名が  
アイヌ語の場合はその原義を意識した漢字を付し（滝川村の類）  
あるいは第一項に従いアイヌ語をそのまま命名すべし（奈江「谷の

意」の類)

その字名が日本語かアイヌ語か区別できぬ場合もまた同じ

第六項 新たに開く町村でその開拓に縁故ある名称  
(前田村、新十津川村、もしくは月形村の類)  
を用いる場合は第五項によらず別段の詮議による

私がこの通達文から感じるのは、永山武四郎のアイヌ文化を尊ぶ強い思いです。そしてそれは一時の思いつきなどではなく、以前からそういう考えを持っていたのだらうと感じます。おそらく長官就任当初よりアイヌ語地名の保全を指示していたのではないのでしょうか。

逆に言えば、そうであったからこそ、この時期このタイミングに敢えてこのような通達を出したと思われます。この時期このタイミングというのは、まさに旭川開村告示の直前であるという事です。意地悪な言い方をすれば、永山武四郎による”旭川”という命名に対する”言い訳”の一環ではなかったかと・・・。

旭川の名称については、既に永田方正の協力によるチュッペツ意識を用意して”理論武装”は成されていましたが、おそらく当時の役人達は、告示前に旭川という名を初めて聞いた時、誰もが「旭日」の「旭」と認識したに違いありません。この内訓はアイヌ語意識である事の裏打ちとして通達され、「他ではマネしちゃいかんよ」的な意味合いもあったと思えてなりません。

明治23年というのは、いよいよ内陸に向けて新たな村名が次々と告示され始めた年です。内訓の第五項で「原義を意識」の例に挙げられた滝川村は、明らかにこの新たに加えられた訓示に従った典型的な命名と言えますが、ところが、滝川村の開村告示はこの年の1月15日の事であり、内訓のあった半年以上も前の事です。つまり、通達されるされないに関わらず、実際にはこの頃から内訓で訓示された内容は実施されていたわけです。さらに、滝川村の開村告示は、旭川の名が初めて新聞に登場した時期とほぼ同時期であり、やはり永田方正が関わった命名であると思われる事から、あるいはアイヌ語の原義意識を旭川にこじつけるための下準備・既成事実づくりだった可能性もあります。滝川もまた本来ならば「空知村」とでもすべき「ソラチプト」という字名を持っていたわけですから。

ちなみに第六項は明らかに永山村が意識された項目に思えます。もっとも永山村については天皇陛下による「綸言」に従っており、このような項目があろうがなかろうが如何なる者も反対できるはずはありませんが。

旭川開村告示直前になって敢えてこのような内訓が通達された意味は、間もなく告示する旭川の名も、従前から自分が言っていたようにちゃんとアイヌ語を尊重してますよ、と強調しつつ、以降命名される村名に対して縛りを加え、何よりも永山武四郎自身の思いとして、上川に開く村名は例外、としたかったのだと思います。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 7月11日(木)22時52分46秒

[返信・引用](#)

あずさんへ

- > でも、このポンは「ポン」「ポロ」のポンかなあ～と思ひまして…。
- > 「小さい」「大きい」の小さい方です。  
すみません、まさにその通りでした。  
「・ポンとは「小さい・役に立たない」(※)との意味がある。ポン・ポンと同じ意味の言葉をふたつ重ねたことは、アイヌ語で「本当に役に立たない」という意味。ポンには山ひとつ越した平地という意味もある。」
- > 北海道っぽく言ったら「こつたらちっこいとこなんて、なんもならんべや～」全くそのイメージですね。
- > でも、「ポンポン」ってホント可愛い響きだな～。  
アイヌ語でも重ねると強調されるんですね。ぐふふふ可愛いです。  
ポンポンニタシベツ

---

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: [あず](#) 投稿日: 2013年 7月11日(木)22時28分52秒

[返信・引用](#)

> [No. 790\[元記事へ\]](#)

かんじさんへ

かんじさん横レスですみません。

- > 「ポンポンニタシベツ」ってうなんとも可愛らしい名前でしょ。
- > ポンってたまにありますけど、湿地とかいう意味らしいのですが、
- > 他にも「役に立たない」って意味があるそうです。

ポンポンは初めて聞きましたよ。

でも、このポンは「ポン」「ポロ」のポンかなあ～と思ひまして…。  
「小さい」「大きい」の小さい方です。

大きいので有名なのは、白老にポロトコタンってありますね。  
ポロ・トウで大きな沼。  
たぶんアイヌ語っぽく、小さくて小さくてって感じで、ポン+ポンの和製アイヌ語っぽいイメージ。

北海道っぽく言ったら「こつたらちっこいとこなんて、なんもならんべや～」

失礼しました。。。  
でも、「ポンポン」ってホント可愛い響きだな～。

---

Re: 「地名記載ニ付キ内訓」 投稿者: [あず](#) 投稿日: 2013年 7月11日(木)22時10分55秒

[返信・引用](#)

> [No. 789\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

> さて、とりあえず前述の永山武四郎による内訓をタイプしましたので紹介します。

これはこれは、ありがとうございます。(私のためってこともないでしょうが…笑)  
大変だったでしょ!?

- > 我々にとっては難字・難解な明治の通達文ですが、
- > 一字一字じっくり読み込むと、その意は充分汲み取れると思います。

はい。意味は伝わりますね。ローマ字以外は解りました…。

> 評論はまた後日。

思わずいろいろ書きたくなりましたが、我慢しておきますね～。  
評論、楽しみにしています。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 7月11日(木)11時05分58秒

[返信・引用](#)

momongaさんへ

> 私が嫌うのは、あくまで元々アイヌ語とは関係なく付けられたはずの”和製地名”にまでアイヌ語をこじつける事に対してです。  
全くその通りですね。  
誤解させる書き方でした。  
m(\_ \_)m

ps.

最近、行くことがあったのですが、愉快的地名があります。  
「ポンポンニタシベツ」ってうなんとも可愛らしい名前でしょ。  
ポンってたまにありますけど、湿地とかいう意味らしいのですが、  
他にも「役に立たない」って意味があるそうです。  
湿地で住めないとか作物が出来ないというところからでしょう。  
なので「ポンポン」は強調されて「全く役に立たない」って意味らしいです。

「地名記載ニ付キ内訓」 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 7月10日(水)22時46分0秒

[返信・引用](#) [編集済](#)

さて、とりあえず前述の永山武四郎による内訓をタイプしましたので紹介します。  
我々にとっては難字・難解な明治の通達文ですが、  
一字一字じっくり読み込むと、その意は充分汲み取れると思います。  
評論はまた後日。

#### 「地名記載ニ付キ内訓」

本道地名記載方等ニ付別紙ノ通決議候 条第一項  
第二項ノ趣旨ハ其公文図書地図等ヘ地名記載  
ノ場合ニ於テ注意セサルベシ  
右内訓ス

明治二十三年七月三十一日  
北海道庁長官永山武四郎

- 第一項 凡地名ニ充ツベキ漢字ハ成ルベク難字ヲ避クベシ
- 第二項 各地ノ字ハ総テ仮名ヲ以テ記載スベシ  
但或ル場合ニ於テハ（地図ノ如キ）羅馬字ヲ以テ記シ 又ハ仮名羅馬字ヲ対照併記スベシ
- 第三項 町村名及町村ノ上ニ冠スル総称（福山ノ類）等公称ノ地名ハ総テ従前ノ通り漢字ヲ用フ
- 第四項 現在町村名中難読ノ文字（幸震 咄別ノ類）ハ将来町村分合等ノ機会ヲ待テ更正スルモノトス
- 第五項 将来新ニ町村ヲ付スルトキハ其地ノ字「アイヌ」語ナルトキハ其原義ヲ意識シタル漢字ヲ付シ（瀧川村ノ類）或ハ第一項ニ依リ「アイヌ」語ヲ以テ名クベシ（奈江「谷ノ義」ノ類）其日本語ト「アイヌ」語トヲ区別スル能ハサルモノ亦同シ
- 第六項 新開町村ニシテ其開拓ニ縁故アル名称（前田村、新十津川村、若クハ月形村ノ類）ヲ用フルハ第五項ニ依ラス別段ノ詮議ニ拠ル

[返信・引用](#)

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: momonga 投稿日: 2013年 7月10日(水)22時27分18秒

> [No. 786\[元記事へ\]](#)

> 私が単純に感じるのは、momongaさんは嫌うところもありますが、北海道の地名をアイヌの言葉から置き換えた部分です。  
> momongaさんの拘るところでもあります、その土地に根差した地名こそがふさわしいという部分なのです。

あれれ？ かんじさん、これ、とんでもない誤解です。  
私がアイヌ語を漢字に置き換えて地名とする事に対して嫌っているという事はまったくありません。  
嫌ってないどころかかんじさんのおっしゃる通りだと思います。  
私が従来から主張している伝統的地名に対する拘りは、何も和人による歴史伝統だけに限っているわけではなく、  
北海道であれば当然アイヌ語に由来する伝統地名も含まれます。

私が嫌うのは、あくまで元々アイヌ語とは関係なく付けられたはずの”和製地名”にまでアイヌ語をこじつける事に対してです。  
そうではない全道各地のアイヌ語由来による地名に関して違和感はまったく感じません。  
ただ、やっぱり漢字として読み難い地名が多すぎるというのはありますけどネ。  
ま、それもまた地域としての一つの特色だと思っています。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: あず 投稿日: 2013年 7月10日(水)00時14分36秒

[返信・引用](#)

momongaさんへ

> 唯一アイヌ人の出身系譜の目安になるのが、アイヌの家紋とも言える「イトツパ」の存在でしょうか。

そうですね。文字的に残っているとなると説得力があります。  
ただこれも、一部が全部と認識しがちになりそうな危険性も踏まえなくてはと思います。

> つくづく残念に思うのは、もしアイヌ人に文字文化があればもっと色々な事がわかったらなあ、という事です。

少なくとも口承よりは、多くのことが残されたでしょうね。  
ある植物を紙のように加工してとか、たぶん何かしらの「紙の神」や「文字の神」が居たら変わっていたことでしょう。  
時代考証は何年ではなくて、〇〇(人名)が書いたとか、〇〇の父親は〇〇なので、〇〇頃でしょうって感じでしょうかね。

> 実は、明治23年7月31日付で北海道庁長官永山武四郎名で発せられた『地名記載ニ付キ内訓』でも同様の通達がなされています。  
> 私もこれを根拠として永山武四郎の意としてサイト中でも触れています。  
> 開発の遅かった内陸部の村名は、実際にはこちらの内訓に従って命名されているのではないのでしょうか。

これは失礼いたしました。永山長官も通達したのですね。  
道庁としての通達に逆らうことはあり得ない時代ですよ。  
そっかあ～、そういうことなんだな～。  
うんうん…。

> やばい・・・、  
> この話題になると私は言いたい事が山ほど出てきます。  
> 寝る時間がなくなってしまうので、ぐっところえたいと思います。  
> 原文の紹介を含め、次の機会にします。

ははは、別にふってないですよ。  
でも、同じ興味を共有できそうで嬉しいです。  
次回を楽しみにしていますね。

> それにしても鹿追町のこのHPの町史の内容はすごいですね。

> 旭川市も少しは見習ってほしいものです。

ま、公式ホームページと言われるものは地域性を感じますよね。  
それでも、旭川はまだましな方だと思いますよ。  
上・中・下?富良野なんか如実に地域性というか歴史感が表れているよう  
な…。。。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 7月10日(水)00時13分33秒

[返信・引用](#)

momongaさんへ

> やばい・・・、  
> この話題になると私は言いたい事が山ほど出てきます。  
> 寝る時間がなくなってしまうので、ぐっところえたいと思います。  
> 原文の紹介を含め、次の機会にします。  
>  
>  
> それにしても鹿追町のこのHPの町史の内容はすごいですね。  
> 旭川市も少しは見習ってほしいものです。  
>

鹿追町のHPは偶然に見つけたものですが、もの凄く濃い内容ですよ。  
私の知識には余る内容だと感じています。  
私が単純に感じるのは、momongaさんは嫌うところもありますが、北海道の地名をアイヌの言葉から置き換えた部分です。  
momongaさんの拘るところでもありますが、その土地に根差した地名こそがふさわしという部分なのです。  
思いのある和名を地名に当てはめて行く事も、もちろん歴史として共感納得のゆく感があります、  
が、逆に地名というのはその地に根差したその土地の歴史や思い出を含めた名前が自然と地名になって行く事が理想とを感じる事でもあります。  
そう言う意味では、古くから伝わるアイヌ名を地名とせよというのは北海道人として誇りに思っても良いくらい、北海道らしさを後世に伝える偉業だったのだと思います。  
アイヌと和人との間には悲しい歴史もあるでしょうが、切っても切れない独特の日本史がそこにはあります。  
北海道の地名に一般では読む事の困難なアイヌの言葉が広く浸透しているのは、私にとっては北海道人として嬉しいアイデンティティの一つと感じています。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 7月 9日(火)23時03分5秒

[返信・引用](#) [編集済](#)

あずさんへ

誤解したのは私のほうだったみたいでたいへん失礼しました。

あずさんはアイヌ関連にはずいぶん詳しいようですね。  
私はもっぱら和人との接点にまつわる部分ばかり着目してきましたんで、それ以外のアイヌ民族の歴史・文化についてはまったくの勉強不足です。  
もっともアイヌ人には文字文化が無かったですから、今となっては旧来和人によって伝えられて来た口伝以外は想像に頼るしかないですよ。  
唯一アイヌ人の出身系譜の目安になるのが、アイヌの家紋とも言える「イトツパ」の存在でしょうか。

つくづく残念に思うのは、もしアイヌ人に文字文化があればもっと色々な事がわかったらなあ、という事です。  
今問題としている神楽岡の原名もそうですし、チュプペツの正しいアイヌ語川名も分かったでしょうし、  
ただそうなるのももちろん旭川の名も謎にはならなかったわけで・・・(笑)  
逆に分からない部分があるから楽しいのであり、想像もでき、ロマンスも感じるわけですよ。

>ところで、記憶が定かではありませんが、明治期に北海道の地名を決定する場合には、アイヌ語由来で…とのお達しがあったとか…。  
>そんな一文をどこかで見たような微かな記憶があるのですが、ご存知でしょうか。

既にかんじさんのレスで解決したようですが、  
 実は、明治23年7月31日付で北海道庁長官永山武四郎名で発せられた『地名記載二付キ内訓』でも同様の通達がなされています。  
 私もこれを根拠として永山武四郎の意としてサイト中でも触れています。  
 開発の遅かった内陸部の村名は、実際にはこちらの内訓に従って命名されているのではないのでしょうか。

通達内容は6項目から成っていて、1~4項が地名には難解な漢字を避けた上で町村名などの公称名には漢字を使えという内容。  
 ここまでは開拓使時代に発せられた内容とほぼ似たようなものです。  
 そしてその第5項には、  
 『新たに町村（名）を付する時はその地の字名がアイヌ語の時はその原義を意識した漢字を付するか、  
 あるいはアイヌ語そのものを漢字に置き換えよ』  
 という意味の内容が盛られており、これが内訓のメインになっています。  
 つまり、単純にアイヌ語地名を漢字に置き換えるだけでなく、「原義を意識した漢字」を使えという内容が加えられているのです。

やばい・・・、  
 この話題になると私は言いたい事が山ほど出てきます。  
 寝る時間がなくなってしまうので、ぐっとこらえたいと思います。  
 原文の紹介を含め、次の機会にします。

それにしても鹿追町のこのHPの町史の内容はすごいですね。  
 旭川市も少しは見習ってほしいものです。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: [あず](#) 投稿日: 2013年 7月 9日(火)20時56分19秒

[返信・引用](#)

> [No. 783\[元記事へ\]](#)

かんじさんへ

かんじさん、はじめまして。

お～～!これですこれ!!このサイトを見せていただいたのです。

> 開拓使は明治7年(1874)に北海道の地名について次のような通達を出し、アイヌ語地名を漢字にすることを奨めた。  
 > 「二字已上ヲ不超様相当ノ文字ニ改正…」とあるように、漢字にして出来れば2字以内の文字を当てた地名を用いることとし、翌8年1月から変更する ように布達した。

そうそう、これってすごいキーポイントだよなあ～って思った記憶がよみがえりました。  
 かんじさん感激です。スッキリしました、ありがとうございます。

明治7年でしたか…。  
 その後の現市町村の前身は、そのお約束を踏襲されたのでしょうかねえ～。

上川総合振興局だけみても、旭川・士別・名寄・富良野・鷹栖・東神楽・当麻・比布・愛別・上川・東川・美瑛・上富良野・中富良野・南富良野・占冠・和寒・剣淵・下川・美深・音威子府・中川・幌加内。

それぞれの沿革としては、音威子府は常盤だし幌加内も沼田というか北竜。  
 富良野だけは3文字ですけどね。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 7月 9日(火)19時02分4秒

[返信・引用](#)

> [No. 782\[元記事へ\]](#)

あずさんへ

- > ところで、記憶が定かではありませんが、明治期に北海道の地名を決定する場合には、アイヌ語由来で…とお達しがあったとか…。
- > そんな一文をどこかで見たような微かな記憶があるのですが、ご存知でしょうか。
- >
- > それとも勘違いだったのでしょうか。。。

以下のサイトにその記述がありました。

[http://www.tokachi.pref.hokkaido.jp/d-archive/sityousonsi/shikaoi\\_gaiyou.html](http://www.tokachi.pref.hokkaido.jp/d-archive/sityousonsi/shikaoi_gaiyou.html)

開拓使は明治7年(1874)に北海道の地名について次のような通達を出し、アイヌ語地名を漢字にすることを奨めた。  
 「二字已上ヲ不超様相当ノ文字ニ改正…」とあるように、漢字にして出来れば2字以内の文字を当てた地名を用いることとし、翌8年1月から変更するよ うに布達した。

だそうです。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者: あず 投稿日: 2013年 7月 8日(月)23時42分11秒

[返信・引用](#)

- > [No. 781\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

- > 一つ誤解があるのではないのでしょうか。
- > 私はアイヌ語やアイヌ文化そのものにロマンスを感じないという事ではなく…

あらら、こちらこそ誤解を招いたようで…。

momongaさんがそんなことを思っているなんて、考えたこともありませんよお～。

- > 和人が名付けた地名に、何が何でもアイヌ語由来をこじつけようとする説に対しロマンスは感じない、と言いたかったのです。

まったくその通りで、いかにも後付みたいな由来に出会うと悲しいものがあります。

もっともらしい意味をアイヌ語に求め、まことしやかにつじつまを合わせる。そしてそれを公のものとして、後世に伝える。

正しくもありそうで、情けなくもなりそうな…。

ま、簡単に言うと「なぞかけ」ですよね。

旭川とかけまして～、「チュブ・ペツ」と解く、その心は…って感じ。  
 大喜利の余興みたいなもんです。

ただ、子供の頃ですけど、札幌とか稚内とか…、北海道らしい地名で良いなと思っていました。

なんせ旭川ですからね。深川・滝川・砂川…。○川なんてくだらねえなあ～って。。。

- > 「ナエオサニ」と「ヘツチェウシ」では聞き間違いのレベルではありませんしね。
- > 神楽の名はアイヌ語に由来しないという証左の一つです。

誰かが何かの目的をもってどうにかしたかったのでしょうかね。

明治23年の上川離宮建設調査書とか、その後の明治31年版陸地測量部の地図とか。その経緯からすると、明治20年代のアイヌへの付与予定地が近文に設定された時期って大きいですよ。

たぶん(また想像ですけど…)、邪魔だったんですよ。

アイヌは石狩川の向こう側全部移せって…。

建前は大事ですから、何とか移っていただく策を講じましようと考えたのでしょ

う。

近文に「イオル」の違う三部族が詰め込まれたと考えると辛いものがあります。



(その後も然りですが…)

そんな近文へある和人が現神楽岡地区のことを聞きに行ったとします。

Aさんに聞いた、Bさんにも聞いた、そしてCさんにも…。  
みんな違うことを言ったのかも知れませんが、ある程度は共通していたのか、すべてが同じだったのか…。  
後世には近文アイヌに聞きましたってことにはなりますが…。

そんなことを想像するだけでワクワクします。

それをアイヌ人がこう言ったと、上川アイヌはこう言ったと…。  
当時の学者様が、こうなんだとドンと印鑑を押すような失態があつて当たり前かと…。

> ですから、後年の学者の想像によって生み出された「ヘツチェウシ」説にはロマンスは感じませんが、  
> あずさんの想像にはロマンスを感じますよ。(^^)

あらら、なんか褒めてくれたようで嬉しいです…。

文献はあくまで現時点での文献であつて、将来何かしらのものが出たらガラッと変わる可能性があると思います。

それよりも、当時の人々がどこからどのようにしてその後…。  
過去の文献は、そんな夢想の手助けにはなりませんが、それがすべてでは無いと思います。  
様々な切り口の過去の文献を鵜呑みにはしたくありません。

ところで、記憶が定かではありませんが、明治期に北海道の地名を決定する場合には、アイヌ語由来で…とのお達しがあつたとか…。  
そんな一文をどこかで見たような微かな記憶があるのですが、ご存知でしょうか。

それとも勘違いだったのでしょうか。。。。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者:momonga 投稿日:2013年 7月 8日(月)18時24分38秒

[返信・引用](#)

あずさんへ  
レスありがとうございます。

一つ誤解があるのではないのでしょうか。  
私はアイヌ語やアイヌ文化そのものにロマンスを感じないという事ではなく、  
和人が名付けた地名に、何が何でもアイヌ語由来をこじつけようとする説に対しロマンスは感じない、と言いたかったのです。

私はアイヌ語の語源については、それが元は何であろうがほとんど拘っていません。  
おっしゃるように、アイヌ語にも色んな方言はあるでしょうし、またそれを聴き取る和人によっても十人十色です。  
私が拘るのは、当時の和人達が結果としてどう理解し何と呼んでいたか？です。

神楽という地名はもちろん和人によって名付けられた地名です。  
仮にそれがアイヌ語に由来しているものとするならば、命名当時の和人もまたこの地を「ヘツチェウシ」という名で認識していたはずですが。  
しかし実際はそうではなく、離宮建設地調査の結果、この地は「上川郡字ナエオサニ」と記されています。  
つまり、そのアイヌ語源や過程がどうであれ、当時の和人はこの地を「ナエオサニ」と認識し、そう呼んだのであり、  
このアイヌ語から神楽という地名は生まれて来るはずもないという事なのです。  
「ナエオサニ」と「ヘツチェウシ」では聞き間違いのレベルではありませんしね。  
神楽の名はアイヌ語に由来しないという証左の一つです。

ですから、後年の学者の想像によって生み出された「ヘツェウシ」説にはロマンスは感じませんが、  
あずさんの想像にはロマンスを感じますよ。(^^)

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者:あず 投稿日:2013年 7月 7日(日)00時37分6秒

[返信・引用](#)

> [No. 779\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

ここ数回のやり取りを見させていただきましたが、「アイヌ語」についてお聞きしたいことがあります。

持論として、そもそもアイヌ語と言われる言語はひとつでは無いと思っています。多くの方言があることが自然で、それぞれの解釈が違うのは当たり前だと考えています。

もちろん共通の単語もあるでしょうが、まったく逆の意味になってしまう単語もあります。言い回しと違いますか、例えば日高地方のお隣のエリアでさえ、あそこの言葉は汚い…、そんなお話があります。

本題ですが、そもそも上川アイヌと言われる人々についてです。私は古くから現上川地方に住んでいた人々も居たでしょうが、少なくとも幕末から明治の初期は大きく3つのエリアからの人々が集まって来ていたのだと思います。

ひとつは石狩川下流から上流を目指した人々、もうひとつは十勝からやって来た人々、さらに天塩を超えて来た人々。それぞれが住み分けしていたことはご存知かと思います。

そんな人々が、ある一つの単語について共通の意味を持っていたのか、少なくとも方言はあるはずで、それを元にチュダのチュウだのと聞こえた和人が、これはこんな意味です!と断言しては混乱が起こるばかりです。

> つまり、現在の神楽岡は当時『ナエオサニ』と呼ばれていたものであり、そもそもここから史実が歪曲されています。  
> 『ヘツェウシ』というのは後年のアイヌ語学者が唱えた説に過ぎず、何故これが主説として扱われているのか私には不思議です。  
> 著名なアイヌ語学者だったから?  
> 一説によると、ヘツェウシという地名はあるにはあるが、それにしても神楽岡本体を指す地名ではなかったようです。

神楽岡(忠別川)は元々十勝アイヌの住むエリアでした。ここからは想像ですが、もし『ナエオサニ』が十勝アイヌの言葉で、その後に石狩川のペニウクルである上川アイヌが『ヘツェウシ』と言ったのか、さらに石狩川のペニウクルがパニウクルだとしたら、天塩越えの人々がペニウクルであって、後に俗にいう酋長的な立場になるのですから、それに近い時系列での聞き取りだとしたら、当然おかしいことになると思うのです。

上川アイヌの言葉の意味とともに、その歴史にもロマンスを感じるのですが…。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者:momonga 投稿日:2013年 7月 6日(土)12時49分57秒

[返信・引用](#) [編集済](#)

lsxxさん、こんにちは。

私も旭川の発祥にまつわる、さまざまな場面にロマンスを感じます。しかしながら、史実とロマンスは割り切って考えなければいけないと思います。史実のはっきりしていない部分をロマンスで埋めるという事はよくやる話で、私もやりますが、

ロマンスを感じるから史実を無視してまでその説を支持する、という考え方には賛成できません。

明治22年に離宮設置が閣議決定し、翌23年に離宮設置場所選定のための調査が道庁によって成され、

『上川郡ナエオサニ』が設置場所に決定しています。

つまり、現在の神楽岡は当時『ナエオサニ』と呼ばれていたものであり、そもそもここから史実が歪曲されています。

『ヘツチェウシ』というのは後年のアイヌ語学者が唱えた説に過ぎず、何故これが主説として扱われているのか私には不思議です。

著名なアイヌ語学者だったから？

一説によると、ヘツチェウシという地名はあるにはあるが、それにしても神楽岡本体を指す地名ではなかったようです。

いずれにしても、先に永山武四郎によって『神楽の岡』という日本語地名をもって歌にも詠まれているのに、

それに対して後からわざわざそれらしきアイヌ語地名を持ち出してきて無理やり訳をこじつける・・・

少なくとも私はこれにロマンスは感じず、むしろ何か意図的なものを感じます。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者:lsxx 投稿日:2013年 7月 5日(金)23時00分42秒

[返信・引用](#)

神楽の由来、武四郎の歌に由来とありますが、私としてはアイヌ語由来説を支持したいです。  
以前あさひかわ新聞に掲載された『ヘツチェウシ』の日本語訳の方が、ロマンスを感じます。

momongaさんへ

> kawakaminohitoさんへ

>

> まあ、お気持ちはわかりますが、  
> 全てを永山武四郎に結びつけるのも無理があります。

>

>

> 土人給与地、いわゆるアイヌ部落は、  
> 北京計画によって土着のアイヌ人が窮地に立たされると危惧した岩村通俊が、  
> 散在していた上川アイヌをこの地に集約して、農耕によって生活の糧を建ててもらおうと計画したのが始まりです。  
> ただ、これはアイヌ人にとっては非常に迷惑な話に違いなく、  
> 結局農耕も身につかず、師団に隣接したこの土地を巡ってこれを掠め取ろうとする和人の企みもあり、  
> 一地方の土地争議としては後に「旧土人保護法」という国の法律まで制定させた稀有な例となりました。  
> 元々彼らの土地、というのはちょっと語弊があると思いますが・・・

>

> 神楽（岡）についてはおっしゃる通り、永山武四郎の詠んだ歌に由来してると思っています。

> 故松井恒幸元博物館長の言われた通り、アイヌ語意識は後付けのこじつけに過ぎないと思います。

>

>

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者:momonga 投稿日:2013年 6月26日(水)23時01分28秒

[返信・引用](#)

kawakaminohitoさんへ

まあ、お気持ちはわかりますが、  
全てを永山武四郎に結びつけるのも無理があります。

土人給与地、いわゆるアイヌ部落は、北京計画によって土着のアイヌ人が窮地に立たされると危惧した岩村通俊が、散在していた上川アイヌをこの地に集約して、農耕によって生活の糧を建ててもらうと計画したのが始まりです。ただ、これはアイヌ人にとっては非常に迷惑な話に違いなく、結局農耕も身につかず、師団に隣接したこの土地を巡ってこれを掠め取ろうとする和人の企みもあり、一地方の土地争議としては後に「旧土人保護法」という国の法律まで制定させた稀有な例となりました。元々彼らの土地、というのはいちよつと語弊があると思いますが・・・

神楽（岡）についてはおっしゃる通り、永山武四郎の詠んだ歌に由来してると思いますが。故松井恒幸元博物館長の言われた通り、アイヌ語意識は後付けのこじつけに過ぎないと思います。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者:kawakaminohito 投稿日:2013年 6月26日(水)20時56分6秒

[返信・引用](#)

> [No. 775\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

ありがとうございます。大町、旭町、北門町、錦町の町名が付けられたのは大正11年頃ですか。そうすると永山武四郎が亡くなってから29年近くたってますね。でも何か永山武四郎が命名者であって欲しいと思いますね。土人給与地と言えば北鎮記念館の地図には、この地域は土人部落となっておりますね。上川盆地全体には、戸数10戸100人程度アイヌ民族がおり、全て此処に集められたようですね。そして、彼らにこの地域に田畑を与えたのです。元々彼らの土地ですが。神楽岡（ヘッチ・ウシ ナエオサニの和訳ではなく）は京都の吉田山（神の棲む岡）からだと思えます。嵐山も永山武四郎だと思ったのですが違うそうでありありがとうございます。

Re: 大町、旭町、北門町、錦町 投稿者:momonga 投稿日:2013年 6月24日(月)23時03分52秒

[返信・引用](#)

kawakaminohitoさん、こんばんは。

大町、旭町、北門町、錦町、この辺りの町名が付けられたのは、確か大正11年に旭川に市制が施行された後の頃かと思えます。それまでは石狩川から向こうはすべて近文〇線〇号でした。また、そのかなりの部分は師団にも近い旧土人給与地、いわゆるアイヌ部落で、色々といわく付きの土地です。永山武四郎が没したのは明治37年のことですから、この近辺の細かい町名にまで彼が関わったというのはいちよつと無理があると思えます。

私はこれらの町名由来まで調べていませんが、師団の隣接地でもあり師団と共に発展した地域ですから、当時の世相から言っても町名を付けるにあたって軍と何らかの関連を持たせてもけっしておかしくはないでしょうね。

嵐山についてはもちろんアイヌ語とは無縁ですが、永山武四郎の命名ではありません。

大町、旭町、北門町、錦町 投稿者:kawakaminohito 投稿日:2013年 6月24日(月)15時55分4秒

[返信・引用](#)

旭川市内北側に大町という所があります。旧陸軍第7師団のすぐ隣です。私は大町は王、大王、皇、天皇のことだと思います。長野県に大町市があります。ウィキペディアによると垂仁天皇の弟にあたる「仁品王」がこの地を治めたことから「王

町」と名付けられ、天智天皇7年（668年）に「皇極ノ太子」（大海人皇子（天武天皇）が王町を「大町」に改称されたとあります。私はこの長野県大町市から大町と名付けたと思います。それとも、将来大きな町に成るように大町と名付けたのでしょうか？

しかし、隣の町が旭町です。これは旭日旗から軍隊の町を表していると思います。同じく長野県松本市に旭町があり、明治41年歩兵第50連隊が設置されたので旭日旗からの引用で旭町に名称変更したとあります。

その隣が北門町です。北の守りの第7師団（北門鎮護。北鎮）

その隣が錦町です。兵隊が戦争に勝って錦を飾る町を表していると思います。

この事から大町も軍隊の町を表していると思います。つまり、軍隊最高司令官の天皇を意味すると思います。（明治憲法 第11条 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス）

南の上川離宮（現人神）の側に2つの神楽村と神居村（同じ意味でアイヌ語と関係なく神が棲む村と言う意味）を設置、北の陸軍第7師団の側には4つの大町、旭町、北門町、錦町の軍隊の町を設置。やはり、永山武四郎が名付け親だと思えます。（遺言から、或いは計画当初から？）  
神楽岡と向かいの嵐山はアイヌ語と関係なく、京都から文才？永山武四郎が名付け親だと思えます。いかかでしょうか。

謎の車輛 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 6月17日(月)17時13分12秒

[返信・引用](#) [編集済](#)

16日の午後9時頃の旭川駅です。  
ホームに見慣れない可愛い顔をした車輛が止まっていました。  
少なめの窓にはカーテンがかかっている中が見えません。  
寝台車？長距離列車？ひょっとして貸切列車で北海道まで来たりしてなんて。  
解かる方いますか？

なんて、また問題にしようかと思ったけど、答えが分かったので書きます。

丁度、この列車を写真に撮ろうとして大きなカメラを構えた若者が居たので聞いてみたのです。  
この列車は路線や架線の点検を行う専用列車なんだそうです。  
しかも北海道には無いもので、JR東日本から来ているそうです。  
なんでも年に1度この時期に道内の路線を点検するために、走り回っているそうです。  
ローカルまですべてではなく主に特急列車の走っている路線を点検して帰るんだそうです。  
このカメラ小僧は札幌からこの列車を追ってきたそうで、札幌で撮影してから先回りして  
旭川にこの列車が入ってくるのを撮影して、さらにこの夜のうちに小樽に戻るそうです。  
マニアですね。さすがだ。



Re: 新道の妙なトンネル？ 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 6月14日(金)15時49分46秒

[返信・引用](#)

あずさんへ

春光町は場所がら自衛隊さんが多いですが、3区は割と他の公務員が多かったですよね。  
ま、それ以上はあまり深く突っ込まんでください。^\_^;

一軒家で瓦屋根ですか、、、  
私自身は記憶してないですが、北鎮記念館の裏庭に「旅団長官舎屋根瓦」が展示されてます。  
瓦屋根の一軒家となると、旧軍では師団長、旅団長、連隊長クラスの相当偉い人の官舎だったのでしょね。  
少なくとも各区にそれぞれの連隊長官舎があったはずですし、師団長官舎は3区にあったようですが、  
私が住んでた時はその場所は確か実業高の理事長の邸宅でした。  
つくづく当時もうちょっと興味を持っておけば良かった・・・と悔やみます。

> 地域の歴史を知れば知るほど、稀な土地に育ったのだなあ～と思います。

特に春光町はそれが言えますね。  
なんせ、日本陸軍最大の衛戍地をそのままマチにしたわけですから。



Re: 新道の妙なトンネル？ 投稿者: あず 投稿日: 2013年 6月13日(木)21時16分35秒

[返信・引用](#)

> [No. 767\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

> 私も3区に住んでましたが、親が転勤族だったので北鎮小へは通ってません。  
> 住みはじめた時は既に中学生でしたので、六合中学へ通い無慈悲なボウズ頭にされました（笑）

おやおや？  
3区で転勤族となると想像ができます。  
クラスにも多かったですよ。

ちなみに私もボウズでした…。  
今思えば、学校指定のあの白いカバンも恥ずかしいですね。

> あの当時は、周りに旧軍時代からの建物がまだたくさん残ってましたよね。

そうですね、大きな建物はほとんど無くなりましたが、レンガの建物がかなりありました。  
木造の一軒家で瓦屋根なんてのも記憶がありますか？  
たぶんお偉いさん用の住居だと思うのですが、古い地図にはあると思います。  
本州の黒瓦ではなくレンガ素材で北海道仕様として製造したのでしょうか。

> 当時はそんなものに全く興味なかったので気にも留めてませんでした、  
> それでも転校生で新参者の私に同級生が色々教えてくれました。

まったく同感です。  
私は逆の立場でしたが、あそこが〇〇だよとか、〇〇には〇〇があるよとか、聞かれてもいないのに教えたくなくなっちゃうんですね。  
不思議な顔をしている転校生と、何とか仲良くなりたかったのでしょうか。

地域の歴史を知れば知るほど、稀な土地に育ったのだなあ〜と思います。

---

保存を考える会 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 6月13日(木)16時58分50秒

[返信・引用](#)

保存を考える会は存続すると聞いています。  
今年も市民講座のようなものを開催するとは聞いているので何かしら案内が来ると  
思います。  
が、個人的に連絡をとろうと思ひ自宅に3度電話したのですが、出た例がありませんonz  
携帯持っているのかな？  
川島先生は超アナログな人間で「オーバーヘッドプロジェクターとVHSビデオ」  
を講義に使いそれを自慢するような人ですからね。  
当然、パソコンもメールもダメなんですよ。  
65の手習いで始めるように説得しようかな。

---

Re: 第7師団の建築 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 6月13日(木)12時06分16秒

[返信・引用](#)

かんじさんへ

ええー、よろしいんですか？  
ありがとうございます。

ところで、川島洋一先生は退官後も「旭川の歴史的建物の保存を考える会」はその  
まま続けられるのでしょうか？

---

第7師団の建築 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 6月12日(水)14時44分55秒

[返信・引用](#)

> [No. 767\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

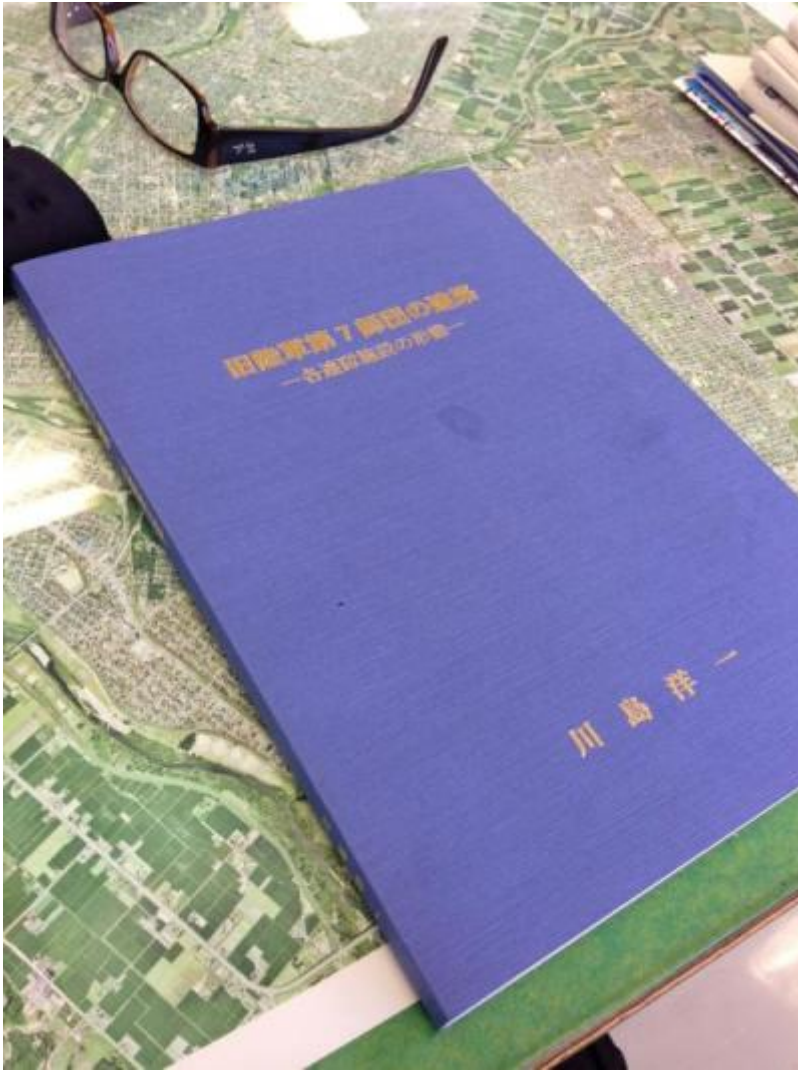
> あの当時は、周りに旧軍時代からの建物がまだたくさん残ってましたよね。  
> 当時はそんなものに全く興味なかったのが気にも留めてませんでした、  
> それでも転校生で新参者の私に同級生が色々教えてくれました。  
> 「あそこにパン工場があった」とか「春光台には砲台の跡がある」とか「あのボ  
口屋は連隊兵舎だった」とか・・・、  
> 同級生達から聞いたそんな話が、今となってサイトをつくる上でけっこう貴重な  
ヒントになったりしてます。

いま私の手元に「旧陸軍第7師団の建築」というA4版100ページ余りの本がありま  
す。

著者は川島洋一先生で、先日先生が退官された際のパーティで配布されたもので  
す。

写真入りで旧陸軍の各連隊の残された施設を調査したものをまとめた本ですね。  
さささっ——と、見たのですが、この本は私の手元に置くよりもmomongaさんに  
もらって頂いた方が価値がありそうです。  
差し上げますので、次の機会にでも。





Re: 新道の妙なトンネル？ 投稿者: momonga 投稿日: 2013年 6月12日(水)12時07分16秒

[返信・引用](#)

あずさんへ

あらら、ほんのご近所さんだったんですね。  
私も3区に住んでましたが、親が転勤族だったので北鎮小へは通ってません。  
住みはじめた時は既に中学生でしたので、六合中学へ通い無慈悲なボウズ頭にされました（笑）

あの当時は、周りに旧軍時代からの建物がまだたくさん残ってましたよね。  
当時はそんなものに全く興味なかったので気にも留めてませんでした、  
それでも転校生で新参者の私に同級生が色々教えてくれました。  
「あそこにパン工場があった」とか「春光台には砲台の跡がある」とか「あのボロ  
屋は連隊兵舎だった」とか・・・、  
同級生達から聞いたそんな話が、今となってサイトをつくる上でけっこう貴重なヒ  
ントになったりしてます。

私が住みはじめた時は、偕行社は既に改修されて博物館になっていましたが、  
やはり同級生からおばけ屋敷時代の話をよく聞かされました。  
強烈な思い出としては、大雨でウップツ川が溢れ春光町一帯水浸しになった事があ  
りましたよね。  
春光園も全面水に浸かって湖のようになりましたが、  
真っ白な偕行社が、あたかも水に浮かぶ洋館のように美しかったことを覚えていま  
す。

Re: 新道の妙なトンネル？ 投稿者: あず 投稿日: 2013年 6月11日(火)20時37分40秒

[返信・引用](#)

> [No. 765\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

そうですね。はじめましてですね。  
あらためて、お邪魔します。

> 私が春光町に住んだのは昭和45年からでした。

今は解体されてしまいましたが、旧5区の自衛隊官舎「特1」に住んでいました。  
小学校入学少し前に引っ越したはずですが。  
その前は、七師団ゆかりの旧3区にあった、木造二階建ての大きな建物に住んでいました。  
記憶の断片があります。

> あの頃はスキー授業に限らず、冬になると近所の子供達がけっこうあのスキー場で滑ってましたよね。

> 懐かしいです。

> そうそう、一生懸命登っても滑るとあっという間なので、もったいなくてなかなか滑らなかったのを覚えています（笑）

ははは、まさにそんな感じでしたね。  
高学年になるとミニスキーが流行り、小さなジャンプ台を作って省エネになりました。

> 春光園もいい遊び場でした。

> 確か、当時博物館（偕行社）の入館料が子供5円だったと記憶しています。

大人が10円でしたね。  
入口右側に小さな図書室みたいなのがあって、くつろいでみたり…。

お化け屋敷時代の偕行社も記憶にあります。  
町内の夏のイベントで、肝試しなんかもありましたよ。  
公園の整備もあまりされていなかったの、のどが渇くと交番に行って水飲ましてくださいってね。

その後、屯田兵屋や電車がかった時代も春光園は大切な遊び場でした。

> 近々レポートしようと思ってたんですが、  
> 春光園の樹木がバサバサと伐採されてしまっています。

去年の暮れにテープを巻いていましたね。  
かなり切ったようです。

最近でもチゴハヤブサが営巣していたんですけどね…。

---

Re: 新道の妙なトンネル？ 投稿者:momonga☑ 投稿日:2013年 6月10日(月)22時34分52秒

[返信・引用](#) [編集済](#)

あずさん、はじめまして。

私が春光町に住んだのは昭和45年からでした。  
あの頃はスキー授業に限らず、冬になると近所の子供達がけっこうあのスキー場で滑ってましたよね。  
懐かしいです。  
そうそう、一生懸命登っても滑るとあっという間なので、もったいなくてなかなか滑らなかったのを覚えています（笑）

春光園もいい遊び場でした。  
確か、当時博物館（偕行社）の入館料が子供5円だったと記憶しています。

近々レポートしようと思ってたんですが、  
春光園の樹木がバサバサと伐採されてしまっています。

---

音楽行進の1コマです 投稿者:momonga☑ 投稿日:2013年 6月10日(月)22時04分3秒

[返信・引用](#)

昨年に続きYoutubeにUPしてみました。

開会式の様子

<http://www.youtube.com/watch?v=ZDBfcxUa50E>

ハーレー警ら隊

<http://www.youtube.com/watch?v=QLiE9eT2f6c>

パレード先頭3隊

<http://www.youtube.com/watch?v=cd3aSqHTqC0>

写真上：開会式 道警音楽隊

写真中：開会式 凌雲高校

写真下：アフターコンサート 大雪クラブ





Re: 新道の妙なトンネル？ 投稿者: [あず](#) 投稿日: 2013年 6月10日(月)21時14分32秒

[返信・引用](#)

> [No. 762\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

> 戦前からある学校としては北鎮小学校がすぐ近くですから、もしかしたら軍人の子弟のために造ったのかもしれませんが。

私は北鎮小出身(昭和40年代)ですが、冬のスキー授業はここでしたよ。みんなで歩いて春光台まで行って、午前中が授業で午後が自由時間って感じ。もちろん伊ノ沢スキー場のようなリフトなんて高級なものはありませんから、滑るためには大汗をかかなくてはいけませんでした。

> 最低限の遊歩道があるだけですが、あのスキー場からの眺めはたいへん良いし、  
> 私も年に1度はぶらつきに行きますよ。

当時てっぺんには木の切り株が2つありまして、その上に座って大雪と十勝岳を眺めるのが好きでした。斜面には多少の水が流れていて、ダムを作って遊んだり基地を作ったり、のどが渴くとキラキラとした湧き水を飲んだり…。

ワイルド系の遊びは、春光園(昔の整備前の池)でトンボを捕ったり、ヒルに食われながら水生昆虫を捕ったり…。今日はザリガニ捕りに春光台行くぞって感じでしたねえ～。カワナもたくさんあったので、蛍もいたのかもしれませんがね。

Re: 新道の妙なトンネル？ 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 6月10日(月)14時38分28秒

[返信・引用](#)

場所がら、第七師団が設置したスキー場と考えて良いと思いますよ。おそらく兵隊のスキー訓練にも使ったでしょうし、戦前からある学校としては北鎮小学校がすぐ近くですから、もしかしたら軍人の子弟のために造ったのかもしれませんが。いずれにしてもあの近辺は全て師団の衛戍地であり演習地でしたから、一般人は住んでいませんでした。

春光台の緑地は、昔ながらの雑木林や笹藪などがほとんど手をかけずに残されており、春先には天然ミズバショウの群生もいっせいに花を咲かせます。最低限の遊歩道があるだけですが、あのスキー場からの眺めはたいへん良いし、私も年に1度はぶらつきに行きますよ。

[返信・引用](#)

Re: 新道の妙なトンネル? 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2013年 6月10日(月)10時25分44秒

momongaさんへ

> かんじさんへ

>

> あそこはですね、ああ見えて実はスキー場なんですよ。  
> スキー場とは言ってもリフトも何もないただの斜面ですが、たぶん戦前からある古いものです。

じえじえ!

あそこがスキー場ですか。びっくり。

と思って古い資料を見ると、たしかにスキー場がありますね。

昭和初期の吉田初三郎の鳥瞰図にも春光台にスキー場が描かれていますが、

まさかその由緒あるスキー場が、「あの」トンネルだったとは、、、、。

面白いものですね。

そして大金をかけてもその斜面を残した旭川市にも敬服します。

その割にいまは何もない只の空間ですが。

北海道地図の出している今の鳥瞰図を見てみると、確かに「春光台公園スキー場」

って書いてありますね。

ふ~~~~ん。

---

Re: 新道の妙なトンネル? 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2013年 6月 7日(金)23時49分54秒

[返信・引用](#)

かんじさんへ

あそこはですね、ああ見えて実はスキー場なんですよ。

スキー場とは言ってもリフトも何もないただの斜面ですが、たぶん戦前からある古いものです。

さすがに近年は使ってないと思いますが、昔は近辺の学校もスキー授業で使ってました。

実は私も春光町に住んでいた頃、あそこでスキーをした経験のある一人です(笑)

あの部分だけ樹木が無くて粘土の地肌が見えてるのはそういう理由からです。

新道が計画された時、当初はあの部分も削られて周囲と同様道路で分断されてしまはずでした。

ところがその後、詳しい理由はわかりませんが、あの部分はトンネルを通す事に計画変更されたのです。

春光台(とは限らず旭川周辺)はガチガチの粘土質ですから、土砂崩れというのは聞いたことはありません。

おそらくスキー場を残すというより、当時からあの近辺を緑地帯として整備して行く市の計画があったからだと思います。

昔から春光町の住民は、スキーだけでなくあの斜面を使って春光台と慣れ親しんで来た歴史もあります。

それを考えると、あそこをトンネルにしたのは私も大正解だったと思います。

ちなみに、もう一つの長い方の春光台トンネルですが、

あの上の斜面が、レルヒ中佐が北海道で初めて第七師団の兵士にスキーを伝授した場所です。

春光台は北海道のスキー発祥の場なのです。



《前のページ》 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 《次のページ》  
以上は、新着順801番目から850番目までの記事です。

/ 32 ページ移動

新着順  投稿順 表示切替

[【論・旭川】HPへ戻る](#)

[管理者へメール](#)

[RSS](#)

[管理者メニュー](#)

[自分の投稿の編集](#)

[teacup.レンタル掲示板](#)